

創立70周年 東京岩高会会報

第68号

令和8年7月12日

総会開催案内

第70回

東京岩高会記念総会

令和8年11月23日(月曜日)

午前11時開会(KKRホテル東京)

東京に岩高家族の
笑顔の花を咲かせよう

詳細は2ページに掲載

「軽部堰(大水門)の春」

写真「東京岩高会ふるさと大使 土井祐之氏 S.54卒」



第70回 東京岩高会 記念総会 開催ご案内

平素より、当会の活動に対しまして、ご理解・ご協力を頂きまして御礼申し上げます。これも諸先輩方・ご関係の皆様方のお支えがあつてのことと存じます。改めて御礼申し上げます。

今年の総会は下記のとおり予定しておりますので、たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

- (1) と き：令和8年11月23日(月) 11:00～14:00
- (2) と こ ろ：「KKR ホテル東京」
東京都千代田区大手町1-4-1
Tel 03-3287-2921
- (3) 会 費：8,000円
- (4) 出欠連絡：10月30日(金)までにご連絡を頂きます様お願い致します。
※連絡先
支部長：長沼 和秋 090-5339-8141
幹事長：高橋 聖 080-5034-0179
- (5) 特別 プログラム：岩永壽子さん(昭38年卒)・古館芳子さん(昭51年卒)ご姉妹と
津軽三味線大御所 澤田勝仁さんによる民謡三味線
- (6) 還暦の会：今年は昭60年卒が対象であり、当日は当会よりお祝いを進呈致します。
お誘い合わせの上お越し下さいますようご案内申し上げます。

今年度 総会概要

会費およびキャンセルについては下記のとおりとさせていただきますのでご了承の程、お願い致します。

会 費

- ・会費は当日申し受け致しますが、年会費もご協力頂ける方は
総会会費と併せてお振り込みをお願い致します。
(3,000円+8,000円)
- ※振込み先「東京岩高会 00170-3-55498」
- ※振込み手数料はご負担願います。

キャンセル

- 出席から欠席に変更される場合は11月19日(木)までに必ずご連絡下さい。
- それ以降のキャンセルの場合は、会場手配の関係で会費のご返金できませんので、ご了承の程、お願い致します。

—今年の総会会場— KKRホテル東京 (東京共済会館)

皇居を望む
素晴らしい眺望の
総会会場をご用意致しました。

◆アクセス

いずれも徒歩5分

- ・東京メトロ東西線「竹橋駅」3b 出口直結
- ・東京メトロ千代田線「大手町駅」C2 出口
- ・都営地下鉄「神保町駅」A9 出口

※JR東京駅からは徒歩20分



創立70周年を迎えるにあたり



長沼 和秋
同窓会東京支部長
(就任 平28/11~)
昭53年卒
鷺沢出身

平素より、東京岩高会に對しまして、ご理解・ご協力を頂いておりまして御礼申し上げます。

第69回東京岩高会総会は、令和7年11月23日(日)蘇武德行同窓会会長、原畑聖子校長先生、豊嶋潤仙台支部長など38名のご出席を頂き開催致しました。今回も後藤仁先輩(昭45)から、とても多くのスイーツポテトを頂き、全出席者にお配りさせて頂きました。

私の3本柱「同窓会」「マラソン」「ネパール」。これまでも「ネパール」についてお話をさせて頂いておりますが、当国との繋がりは1984年にIICA海外協力隊(青年海外協力隊)として陸上競技コーチとして派遣された時からで、当時はビレンドラ国王がおられた王国でした。国王は多くの国民から愛され、首都カトマンズからは遠くヒマラヤを望め、どこか懐かしさも感じさせられる風景が漂っていました。

ネパールは「後発開発途上国」のままで、若年層の失業率は20%超。国民

の5人のひとりが海外へ仕事を求め、日本にも27万人が滞在し栗原市には95人(留学生が8割)のネパールの若者があります。母校のEnglish Campではネパールの留学生と異文化コミュニケーションを図っていることは、国際理解へのモチベーションアップに繋がれていること嬉しく思っています。

今年で東京支部長を務め10年目となります。その間コロナがあり、その後の総会のご参加者数は半分程となり、上野の会場だったグリーンパークは閉店。新しい会場を模索していたところ、栗原4校で繋がりのある築館高校OG小野寺洋子さんが勤めるKKRホテル東京となりました。総会の開催や会報制作は、先輩方そして関係者の方々の支えとご支援があり、やってこれたものと思っております。私が48年前に上京した時の支部長だった鎌田正穂先輩は、今も会にはお越しいただいており、近頃言われるのは、母校の入学者減に対し「何かできないか」と。同窓会としても、母校を愛する気持ちは年を重ねていくと益々強くなっていく、そう感じさせられております。

今年第70回の記念総会、佐々木くに子顧問(前東京支部長)が早くから同期の方々にお声かけをされたことで、

37年卒の先輩方のご出席が多数予定されておられ、とても嬉しい限りです。改めてひとつひとつのお声かけが会と人を繋げていくうえで重要であることを教えてくれます。11月23日は東京岩高会が一つとなり、高校時代のこと、母校のこと、故郷のこと、感じあえる場になればと思っております。

高校時代走っていたことでネパールへ導きられ、そのことが新たな人との繋がりとつながっていることは、同窓会を築いてこれた先輩方の「人との繋がりを大切にする」教えそのものであり、「同窓会」「ネパール」、改めて人の繋がりを益々感じつつ、より強いものにしていかねければならないと感じています。今年もしっかり務めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



R7.10 カトマンズマラソン



3 H28.11 第60回 総会



H25.11 第57回 総会 37年卒先輩方

岩高への想い



蘇武 徳行
岩高同窓会会長
(就任 令5/8)
昭47年卒
鷺沢出身

日頃、東京岩高会の長沼支部長をはじめ、会員皆様には、いつもご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年の11月も東京岩高会では楽しい時間を過ごさせて頂きました。いつも歓迎を頂き、ありがとうございます。

さて今年も2月27日卒業生21名の同窓会入会式が行われ、長沼支部長にも遠路ご出席いただきました。



同窓会入会式 R8.2

また、3月1日には卒業式、4月7日には入学式が挙行され新たに20名の新入生を迎えました。

春夏秋冬の移ろいの中にも、ふるさと栗駒山や栗原の緑の情景を思うとき、心の奥にあの日の校舎と仲間の笑顔がよみがえってきます。関東の地においても、私たち岩ヶ崎高校同窓会の絆は変わることなく息づいています。昨今の、社会の変化はめまぐるしく、ますます価値観や働き方も大きく様変わりしています。けれども、岩ヶ崎高校で学んだ「誠実に、たくましく、そして人を思いやる心」は、どんな時代にも色あせることのない道しるべです。懐かしいその教育精神は、今でも私たちのなかに生き続けていると確信しています。

東京岩高会の集いでは、世代を超えて交わされる言葉の中に、故郷の思いや、青春の日々への感謝が満ちています。遠く離れていても、岩ヶ崎高校という共通の原点がある。それが、私達を確実に結びつけているのです。同窓の輪を広げ、若い世代につなげていくことが、重要と考えます。

今年の11月23日もまた再び笑顔でお会いできることを楽しみにしております。

今後も岩ヶ崎高校の誇りとともに、

変わらぬ友情と郷土愛を胸に歩んでまいりましょう。

東京岩高会の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、挨拶いたします。



入学式 R8.4

岩ヶ崎高校の今



原畑 聖子
第28代学校長
(赴任 令和7/4～)

東京岩高会の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に御理解と御支援を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年の東京岩高会に初めて参加した際は、会員の皆様の母校への熱い想いを伺い、「校長先生、頑張っつてね」の温かい応援の言葉に励ましていただき、帰路につきました。また、今年もお会いできるのを楽しみにしております。

さて、本校は、今年で創立八十五年目を迎えております。校庭の桜も開花した4月7日の入学式は、20名の1年生が、岩高生としてのスタートを切りました。全校生徒52名。栗原市の人口減少もあり、同窓生の皆様が在籍していた時代と比べると寂しい規模となりました。今年度は地元中学校からの入学生も増え、生徒たちは、学習部活動、生徒会活動等に熱心に取り組

んでおります。ひとり一人を丁寧に育てる岩高の魅力を発信し、一人でも多くの生徒が入学するよう、教職員一同取り組んでおります。

東日本大震災から15年が経過し、在校生は震災の記憶がほとんどない世代です。宮城県では、昨年からの地震後に後発地震注意情報が出ていることもあり、防災意識の向上が求められています。昨年の東京同窓会総会において、仙台岩高同窓会長で現在宮城県復興危機管理本部危機管理監をなさっている豊嶋潤様の御講演を拝聴し、是非生徒にも伝えていただきたいと思っております。この4月にその機会を得て、探究学習の一環として「巨大地震・津波の被害想定と必要な備え・行動」と題して御講演いただきました。宮城県で起きた大きな自然災害、東日本大震災の被害状況と震災復興計画、そして伝承活動と防災の普及啓発を行うことで、世代を超えた防災意識の高揚を図り、減災を目指すというお話をいただき、生徒とともに防災への想いを新たにしました。これも同窓会からご縁をいただいたおかげだと深く感謝しております。

生徒たちの努力と先生方の丁寧な指導が実を結び、令和7年度卒業生(21

名)の進路実績は、国公立大学4名、私立大学のべ23名の合格、県職員、栗原市職員合格など、素晴らしい成果となりました。

今後も、これまでの伝統を受け継ぎ、小規模・少人数での教育活動の実践で培った実績を生かし、岩高でなければできないことを大切にしながら、魅力ある学校づくりを進めていきたいと思っておりますので、引き続き御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、東京岩高会の皆様の更なる御健勝と御活躍をお祈り申し上げます、挨拶いたします。



山車祭ボランティア R7.8



5 卒業式 R8.3



夏季学習会 R7.8

絆を力に、
母校の未来
を共に紡ぐ

69回東京岩高会



豊嶋 潤

岩高同窓会
仙台支部長
(就任 令4/8)
昭60年卒
尾松出身

東京支部の皆様におかれましては、
清々しい春の佳き日をお迎えのことと
お慶び申し上げます。

さて、去る令和8年2月6日、仙台支
部におきまして懇親会を開催いたしま
した。当日は同窓会本部より蘇武会長、
菅原浩紀・茂樹両副会長、そして原畑
校長にご臨席いただいたほか、東京支
部からも長沼支部長に駆けつけていた

だきました。各地で母校を支えるリー
ダーが一堂に会し、岩高時代の懐かし
い思い出や近況を語り合う時間は、ま
さに「岩高ファミリー」としての絆を再
確認する極めて有意義なひとときとな
りました。

思い返せば、昨年11月に開催された
東京支部総会において、私に貴重なお
時間をいただき、「消防の現状」と題し
てお話をさせていただいたことが昨日
のこのように思い出されます。地域
の安全を守る消防団の現状、そして東
日本大震災からの歩みと震災遺構の今
についてお伝えいたしました。熱心に



岩高探究ツアー事前学習 R8.4

耳を傾けてくださる皆様の姿を通じ、
故郷・宮城の現状を正しく理解し、寄
り添おうとしてくださる東京支部の皆
様の深い郷土愛を肌で感じ、胸が熱く
なる思いでした。

しかし、こうした絆の強さを実感す
る一方で、母校を取り巻く環境は決し
て楽観できるものではありません。懇
親会の席上、原畑校長からもお話が
あったとおり、少子化の波は加速度を
増し、入学希望者の減少は深刻な課題
となっております。栗駒の豊かな自然
に抱かれた学び舎から活気が失われて
いくことは、私たち卒業生にとって寂
しさを超えた切実な危機感であります。
母校が直面するこの困難を乗り越え
るためには、行政や学校の努力に頼る
だけでなく、私たち同窓生が「何がで
きるか」を問い直す時期に来ているの
ではないでしょうか。仙台、東京、そして
本部がこれまで以上に密に連携し、卒
業生のネットワークを現役生の支援や
学校の魅力発信に繋げていくことが肝
要です。震災から立ち上がった宮城の
底力のように、私たち同窓生が団結す
れば、必ずや母校の新たな可能性を切
り拓けると信じております。

結びに、東京支部の益々のご発展と、
皆様のご健勝をご祈念申し上げます



仙台支部懇親会 R8.2

ともに、今後とも支部間の交流を深め、
共に岩高の伝統を次代へ繋いでいくこ
とを願い、私の挨拶といたします。

「岩高探究ツアー事前学習」

岩高探究ツアーの事前学習が4月23日(木)に行
われ、宮城県復興・危機管理部 理事兼危機管理
監 豊嶋潤氏をお招きして、宮城県の災害に対する
取り組みや、東日本大震災、その他の過去の自然災
害からの課題や対策などについてわかりやすくお
話をしていただきました。

私たちの行動変容が大切というお話もあり、過
去の災害を知ること、今後想定される災害にお
いて、自分たちがどのようなことをすれば被害を
減らすことができるのか、1日の探究ツアーで学ぶ
意欲が高まったと思います。

岩高事務局

岩ヶ崎高校の近況報告



佐藤 和之

岩ヶ崎高校
総務部長
昭60年卒
岩ヶ崎出身

この春の人事異動では、本校の中心として活躍された教職員が多数転出しました。吉野芳和教頭(気仙沼高校)、佐藤圭主幹教諭(石巻特別支援教頭)、道塚勇教諭(登米総合産業高校)、大沼宏多教諭(仙台南高校)岡崎斉太事務室長(動物愛護センター)、後藤るみ子事務次長(鹿島台商業高校)、高橋恵美学校司書(築館高校)、そして地域コーディネーターの三浦大樹さん、星光さんが任期満了で退任されました。

新たにお迎えした職員には、徐々に岩高と岩高生に慣れていただいていると感じます。古川や仙台方面から通勤される方が多いのですが、「遠くてたいへんだが、栗駒山の雄大さ美しさ、岩高



科学部

ちに多く選ばれており、近年力を入れてきた地域との連携や広報活動が実ったと感じております。

部活動では近年続いている文化部へのシフトが今年は一層顕著で、1年生は軽音楽部8、吹奏楽部3、美術部2、科学部1と4部すべてに入部者があり、軽音楽部は総勢19名となりました。

生の素直さ純朴さは素晴らしい」との声が聞かれます。今なお伝統が生きている証だと感じます。

昨年来のアメリカによる相互関税の実施やイランでの戦争など世界中を巻き込むような混乱が続いており、お仕事や生活に影響を受けている方も多いのではないのでしょうか。一方でわが岩ヶ崎高校はというと、この春ひさしぶりに新入生が増加に転じたことや、新3年生はじめ多くの生徒が明るく前向きなタイプの人が多い?ためか、明るい雰囲気の中で活気のある新年度を迎えております。

新入生は男子9名女子11名、出身中学校別では栗駒中が15名と久しぶりに二桁となったうえ、栗駒中学校の卒業生の進学先では本校が最多であったということ、地元栗駒・鶯沢地区の生徒たち

した。運動部はソフトテニス部4、バドミントン部2で、野球部、バスケット部、バレー部、剣道部はそれぞれ3年生1名だけとなりました。しかし、それぞれ最後の総体に向けて、顧問の教員と向き合いながら熱心に活動を行っています。

昨秋のクマ騒動では、学校近隣への出沒があつたため、10月17日に予定されていた「健康強歩大会」を中止としました。さらに日々の登下校や授業中の出沒にも備える必要がありました。自然災害も、三陸沖や北海道、カムチャツカでの地震が発生し、災害対策が現在の大きな課題となっています。今年は地域探究活動の一環として5月1日(金)に「岩高探究ツアー」で、全校生徒による気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館などを訪問し



剣道部

ての研修を実施しました。沿岸部の被害の甚大さを目の当たりにしての驚きとともに、復興に向かう人々の努力と支え合う姿を知り、災害とともに社会に対する考えを深めることにつながった研修となりました。また、ツアーに先立つ事前学習として岩高同窓会仙台支部長で、宮城県復興・危機管理部危機管理官の豊島潤氏(昭60年卒)に、宮城県としての災害経験を今後の防災に生かしている現状についてご講話いただきました。

このように同窓生みなさまのさまざまなご支援・ご協力のもとで、岩高生たちは日々成長を続けておりますことを申し上げ、近況報告とさせていただきます。



吹奏楽部



岩ヶ崎高校の近況



熊谷 有真
岩ヶ崎高校
生徒会 副会長

岩ヶ崎高校に入学して、早二年が経ちました。ここ数年で岩ヶ崎高校は様々な活動に取り組んできました。例えば、令和7年度栗原市全域で、熊の出没が多発し、その影響で岩高三大行事の一つである、健康強歩大会が安全確保のため中止となってしまいました。しかし、その代わりに、健康ポッチャ大会が開催され、生徒たちと先生方とで、活気あふれるよい時間を過ごすことができました。熊の影響とは言え、この新しい取り組みは大きな挑戦のひとつです。

いくつかある新しい取り組みの中で、最も岩ヶ崎高校に変化をもたらしたのは、岩ヶ崎高校の看板となるマスコットキャラクターの誕生です。生徒と先生一人ひとりがキャラクターの案を募り、集まった延べ五十件ほどの案を生徒会で候補を3つに絞り、文化祭の

ときに決戦投票を行いました。この投票は、文化祭に来場いただいた一般の方にもご参加いただきました。その結果、一票差で「いわはなちゃん」が勝利しましたが、二位の「まなぶくん」とあまりに僅差だったため、この2つをマスコットキャラクターにしようということでした。

マスコットキャラクター



いわはなちゃん

まなぶくん

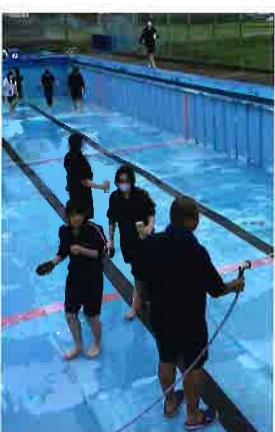
この二つのキャラクターの活躍ぶりについて説明します。まず、この2つのマスコットキャラクターのイラストと岩ヶ崎高校と書かれたのぼり旗が作られました。これは卒業式の日に三年生にサプライズで用意しました。また、缶バッジや先生方の名刺にもいわはなちゃんとなまぶくんが描かれています。なぜマスコットキャラクターを作ろうと思ったのかというと、岩高に貼られたまじめさや勉強だけというレッテルを剥がすためでした。このレッテルを剥がし、岩高の魅力をもっと多く発

信できれば、新入生の数が増えると思います。

令和8年度岩ヶ崎高校は、新たに二十名の新入生を迎えました。私たち三年生よりも少しだけ人数が増え、私はとても嬉しく思います。そうした中で、対面式と新入生オリエンテーションが行われました。序盤に行ったアイスブレイクでは、出会って二日とは思えないほど和やかさと賑やかさがほどよく交わった雰囲気でした。

新入生が増えたとは言え、他校と比べるとあまり多い生徒数ではない岩高ですが、それが逆に良いところもあります。生徒どうしや生徒と先生との間には、強固な絆が生まれ、困難を乗り越える助けになります。これからも、岩ヶ崎高校の仲間たちとともに歩んでいきたいと思っています。





会総会開催される

東京岩高 東京岩高

東京岩高会総会



第69回 東京岩高会総会は、令和7年11月23日(日)午前11時、皇居を見渡せるKKRホテル東京にて開催され、同窓生と来賓総勢38名の出席を頂きました。
総会は高橋聖幹事長(昭52)の司会進行で始まりました。
加藤旭孝幹事(昭36)による開会宣言が行なわれ、支部長の長沼の挨拶で総会の幕を開きました。本部同窓会からは蘇武徳行会長、菅原茂樹副会長(昭53)、本校からは4月に着任された原畑聖子校長先生、仙台支部からは豊嶋潤支部長(昭60)のご出席を頂きました。

■本部・本校
会長 蘇武徳行様(23代学校長)
副会長 菅原茂樹様
学校長 原畑聖子様

■仙台支部
支部長 豊嶋潤様
笠原すみえ様
安住美和子様

■迫桜同窓会東京支部
支部長 亀山晶子様
事務局 阿部武寿様

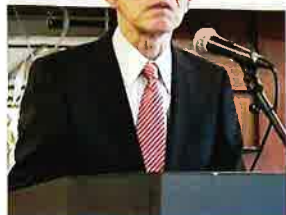
■築館高校同窓会東京支部
支部長 三好加津子様
事務局 多田眞一様
玉井順一様

■東京栗駒会
会長 伊藤税様(昭44)

今回の総会においても、後藤仁先輩(昭45)から、ご厚意でとても多くのお芋を頂き、出席者に配られました。
議事進行は和久充幹事(昭47)が議長に選出された後、浅野和優幹事(昭48)から

第69回 東京岩高

東京岩高会



東京岩高会



東京岩高会



東京岩高会



東京岩高会



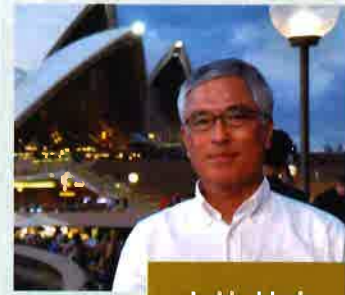
東京岩高会



活動報告・会計報告並びに会計監査（鎌田正
 聰様欠席のため）が行われました。
 引き続き次年度の計画案・予算案の発表
 があり承認されました。
 特別プログラムは、豊嶋潤仙台支部長
 （前宮城県消防学校校長）に消防の現状につ
 いて、興味深いお話を頂きました。
 引き続き、菅原一顧問（昭31）による乾
 杯で懇談が始まりました。
 出席者からのスピーチ及び長寿お祝いと
 して、古希（70歳／昭48）、米寿（88歳／昭
 31）を迎えられた方に、無病息災・長寿祈願
 として、菅原由美子先輩（昭49）ご厚意に
 よる高野山（和歌山県）のお札が贈られま
 した。
 会の締めとして山本信子さん（昭46）に
 よる校歌と応援のフレーフレーが行われ、
 閉会の辞は佐々木くに子顧問（昭37）が行
 い、閉会となりました。

（記 長沼和秋）

「栗駒山の里だより」
ワールド



土井 祐之
昭54年卒
栗原市鳥矢崎在住

東京岩高会ふるさと大使 土井 祐之
さんのブログ「栗駒山の里だより」か
らご紹介頂きました。



馬場通りを走るボンネットバス



地酒「ほでなす」となす漬け



何年ぶりの大型サンマ



深谷の菜の花



栗駒山夕景



美しいヤマドリのお鳥です



セリと山菜の夕食



高原大根販売中



水不足で湖底が草原になった花山ダム



自宅裏庭でオニヤンマの羽化



コスモスと母校



栗駒山中腹のカフェでランチ

「みやぎの環境にやさしい農産物」認証

くりこま高原米

栗駒山の清流で育まれ 食味最高

農業生産法人 有限会社くりこま高原ファーム

〒989-5341 宮城県栗原市栗駒稲屋敷大尻 6 番地

TEL0228-45-2893 FAX0228-45-5425

卒業生：S47カマヤ、S52岩淵功、S53五十嵐功、S55五十嵐晃、S58工藤勝枝、地槽川亮、H19助産主

URL <https://kougenfarm.jp/>

宮城・栗駒産
ひとめぼれ
くりこま
高原米





尾松の畑、麦秋



軽部堰と白鳥



くりこま商家のひな祭り、藍染のつるし雛



世界谷地に咲く、エゾコリンゴの花



一迫ゆり園復活



まんさくの花



温湯基盤所の紅葉



栗駒小学校のイチョウの木



ほんによが並ぶ里の秋



栗駒産ワイン



渴水の栗駒ダム



ひまわりと栗駒山

鶴ヶ鮎 駒ゆべし 季節の和菓子



岡本老舗

宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎六日町 38

☎ (FAX) 0228 (45) 1052

代表：岡本 浩一 昭53年卒 岩ヶ崎出身



驚きは知恵のはじまり



佐々木 くに子

東京同窓会顧問
(支部長 H.20/11
～H.28/11)
昭37年卒
鳥矢崎出身

自然教育満載の環境と18人家族

二歳が終戦でした。鳥矢崎里谷麓沢に生まれ、庄屋造りの大きな家で育ちました。父母が育てた甥夫婦家族と最高で18人家族で、大人は皆働き手でした。野菜は麦類豆類芋類と殆ど作り大家族の食料です。田んぼの作業も全て観察しておりました。戦後間もない小学校、中学校時代は農家でしたので、食料には不自由なくひもじい思いはしなかったように思います。

家は貧乏でしたが、家の後に背負う山々は豊穡で、春夏秋冬子どもたちの好奇心探究心には十分でした。色あり匂いあり、冒険ができる小動物や鳥、虫たちと直接触れる自然教育満載の現場でした。広い田んぼは子どもたちの泥遊びだったり、大人たちの重労働で米のできるまでを生活の知恵を知る大事な場所でした。弟たちや近所の子ともたちと一緒に立ち向かって遊んだ経験は、しっかりと身体の中に住みつき後の幼児教育の現場にどんなに役立ったことでしょう。児童文学者石井桃子氏による「大人になったあなたを支えるのは、子ども時代のあなたである」と。

鳥矢崎村は、昭和30年(1955年)まで栗原郡にあった村。現在の栗原市栗駒里谷・栗駒飛来・栗駒鳥沢・栗駒中野・栗駒深谷にあたる。同年鳥矢崎村と岩ヶ崎町・栗駒村・尾松村・文字村および姫松村の一部(片子沢・宝来)が合併し、栗駒町となる。

鳥矢崎には幼稚園はなかった

私の時代は鳥矢崎には幼稚園はなく、家族や地域の人たちがいろいろ教えてくれ、コミュニケーションはとても良かったです。名前の書き方や数の教え方は両親や家族が手取り足取り教えてくれ、遊びの風あげ、ウサギ小屋を作ったり、雪遊びの櫓(自分用)などは父親が教えてくれ、一緒に兄弟たちと作って遊んだものです。ナタや金槌、ノコギリは子どもたちが試すものとして大事な道具でした。鉛筆削りは小さなナイフが筆箱に入っており、枝を切つてパチンコを作ったり、ナイフは必要なものでした。

後の幼児教育の現場では自分の経験から、金槌、釘、千枚通しは、いつも数を確認して設置して置きました。使い方は教えなくても工夫するのが子どもの得意とすることで、少しの痛みも経験しながら使いこなしておりました。数えて元へ戻すこと、片付けることは決まりです。

鳥矢崎小学校

鳥矢崎小学校は各学年 猿飛来と里谷地域の児童55人ほどで、そのまま6年間一組体制制でした。小学校は直ぐ側に三迫川が流れており、3

年生になると学期はじめには自分の使う椅子や机を先生と一緒に川まで運んで、よく洗い磨いて乾かして使うこともいい教え(指導)だったと強く印象に残っています。

鳥矢崎小学校では三時間目が終わると全校生徒がマラソンです。秋には2学年毎に競技が行われ、5年生と6年の時との競技では女子で一番だったことだけは覚えてます。鳥矢崎小学校の運動会は児童も大人も地域全体が開催の花火と共に大騒ぎで、席取り合戦で沸いたものでした。

岩ヶ崎中学校

一クラス制で6年間を過ごし、そのまま岩ヶ崎中学校へ入学しました。仲間を知り尽くしかばい合つて過ごしたもので、町中で育つた岩ヶ崎小と一緒にいると、我々の消極的な性格はあらわで私もその一人でした。しかしずば抜けて成績のよい人がいました。300人中No.1で卒業し、最後まで平和であること、権利と義務について主張を通して生き抜き、昨年逝去されました(女性)。

岩ヶ崎中学校からの進学については、岩ヶ崎高等学校への選択は親も自分も当たり前前に決めておりました。評判もよく、町内にあるということ。300人中約70～80人は岩高に入学しており



栗駒中学生による職場訪問 平成19年(2007年)

銀座ライツ法律事務所

弁護士 鎌田 正 聡(昭35年卒 尾松出身)

事務所

〒104-0061 東京都中央区銀座3丁目10番9号 KEC 銀座ビル 6階

TEL 03-3546-0281 FAX 03-3546-0280

URL <https://www.ginza-rights.jp/index.html>

ます。若柳高には3、4人、築館高にも2、3人、私立高へ10、20人、古川高専のような優秀な学校へも数人おりました。金の卵として就職の人も数多く1000、1500人はいたと思います。

岩ヶ崎高校

岩高に晴れて入学でき、入学式に一緒に来てくれた父はその8月20日に脳溢血で急逝し、母は9人の子供を抱え、また分家というややこしい立場にあり、力に乏しいにも精神的にもよく耐えて頑健でした。兄二人は社会人になって、私や妹弟たちを助けて7人を高校までは卒業させてくれました。そんな状態から、バスケット部に入学しましたが、二学期からは卒業まで帰宅組として母を助けました。

岩高在学中は男子二クラス女子二クラスと併学でした。三年間そのまま持ち上がり、のせいか纏まり良く、明るい活発な学年のようでした。そのせいでしょうか、平成21年東京同窓会の代表の時、同級生たちの協力は見事で学年全体（岩高みづな会）で後押ししてくれる人たちがいました。私の前の東京支部長を務めた熊谷英雄さんの強い声かけも響いたのでしょう。

就職

岩高を出てやむなく企業に就職しました。父を亡くして進学は到底考えられませんでした。成績もその程度のものでしたから。秩父にあるキヤノン電子（株）でクラスから五人就きました。皆、組み立て作業でした。

三年担任の佐藤ちよ子先生（昭19／9、昭38／3…国語）が秩父まで会社訪問してくれ、「栗駒と変わらないね。頑張ってるね」と肩を撫でて帰られました。先生はその足で東京に就職された人々たちを旅館に呼んで、持ち前のお茶を点てて下さったと同級生より聞いておりました。

私はそこに一年勤め東京の兄のアパートに移り、兄の知り合いのお世話で、麒麟麦酒東京工場専属の運輸会社に事務員として五年勤めました。そこには同級生の須田陽子さんが勤めておられ、ここでも助けて頂き心丈夫でした。

佐藤ちよ子先生は昭和20年（1945年）

岩ヶ崎女学校生徒を学徒動員として引率した際、7月の仙台大空襲で残酷にもその生徒たちも爆撃を受け犠牲者や大怪我をされた。その事件については先生がご逝去されるまで墓参されたり、申し訳ないと悼み繰り返し話をされました。遠刈田温泉の先生の別荘のそばに小さな家を持ち、子どもの教育について最後まで担任の教えがありました。平成25年（2013年）に亡くなられ、D組一同は一周忌を詣でました。



佐藤ちよ子先生別荘にて蔵王遠刈田温泉 平成12年(2000年)

父の言葉「学校の先生になるといいね」幼稚園教諭を目指す

父から中学時代に「お前は学校の先生になるといいね」とよく言われていましたので、会社の事務をしながら、父の言葉が頭をよぎり、その道に気が向き、そうだと決め幼稚園教諭になる経済的準備を致しました。

昭和43年（1968年）4月より、北区にある私立幼稚園事務員として勤める事にしました。事務をしながら幼児たちと触れることが多くなり、子どもたちのきらきらしていて夢中になって遊ぶ姿に、やっと「これだ」と自分の方向を見つけわくわくするのを感じたものです。しかし、時間が経つにつれて「どうして全てを教え込むのだろう、子どもに任せるものがあってもいいのでは」と思いはじめました。

和田實学園で夜学び、昼は就労学生

勤め先の教諭より目白に和田實学園があり、内容がよいことを聞いて行って見ました。日曜日に訪ねたら門を開けて下さったのは理事長の和田淑先生でした。書類審査と面談の事を伺い帰りました。岩高事務の伊藤さんより成績簿や卒業証明などお世話になりました。

昭和45年（1970年）4月より夜学部に入學でき、昼は学校の紹介で所沢にある学校法人幼稚園での就労学生でした。園庭の周りは畑で広々としていて元気な声が聞こえていました。ここでも園だよりを作ったり事務もしながら助手として、子どもの欲求、満足、不満足など自我の育ち方を自分なりに感じながら触れました。やはり教える事に一生懸命で、子供が決定するものがあまり見えないのです。



栗原の田園風景

東京でふる里の心を活かす栗駒会

東京栗駒会

会長 伊藤 税（昭44年卒）

千葉県印旛郡栄町安食台2-27-28

TEL 090-4170-5596

子供は遊ばしめよ、みだりに干渉しない 誘導保育

和田實学園東京教育専門学校では、和田實校長は明治時代に「誘導保育」を説き、子どもは存分に遊ばしめよ、みだりに干渉しない、を徹底して子どもの自由を実践されておりました。付属の目白幼稚園では、保育者はその模範を示していました。許容量の大きさというか受け皿の広さが見えるように、子どもたちがのびのびしているのです。授業でこの科目の先生方も和田實哲学を唱えていて納得のいくものばかりを学びました。この学校を選択して本当によかったとすっかり嵌ってしまいました。

夜学生は頑張り屋で成績もよいと先生方より励まされ、辛いこともなく実のある教育のあり方を2年間学びました。まだ足りないと思いつながら卒業し責任ある実践がこれからは試されるのです。

日出学園幼稚園と青木妙子先生との出会い

青木妙子先生の授業では、自分をあらわに発表するという創作を主にした保育実習科目は、実に楽しく自由であった。彼女は和田實先生の教え子であった。

すっかり魅了さ

せられ、青木妙子先生が主任を務める目黒日出学園幼稚園に昭和47年(1972年)4月就職できま



左から青木妙子先生、私、和田淑子理事長

した。岩高を卒業して10年も経っていましたが、心意気は求める道が見つかったこと、さあこれからと澁瀬としていたように思い出します。

担任は3歳児から持ち上がった4歳児クラスでした。なんと！園児数500人おり15クラス、先生は16人に学生の助手が8名の手薄ながらも大所帯です。

聞きしに勝る、子どもたちの意志力、自由さは格別でした。

自分で決める。

それぞれが納得するまでとことんする。

片付けも遊びの一端である。

使ったものは元に戻す。

先生たちの理解力と学習力、包容力は謙虚に試されるのである。

遊びの一番は砂場の泥んこ遊び

泥んこ遊びや水遊びは身体全身で遊び、始めは汚れる触覚を楽しみ、満足感に依じて汚れ方も遊び方も変化し、創作意欲に展開していき変化していく様子は、子どもの心をのぞく圧倒的な教材でした。片付けて遊びが終わり、温かい湯で身体を洗い、タオルで拭いてもらった心地よさが満足感となり、母親の肌に触れたようなその瞬間がこの遊びの目的であろうと、スタッフは見落とさないように努めました。



砂場の泥んこ遊び 日出学園幼稚園

フィンガーペイント／心の発散(内側)の遊び

触覚遊びで心の整理をするので、フィンガーペイントや新聞紙を粉々にして足で踏んで作る粘土など、身体を動かしてその過程を楽しむ試みは、先生たちの子どもの心を学ぶ素晴らしい教材でした。

失敗感を取り除く遊びなど予定を考えるのに難問でしたが、カリキュラムは子どもたちが示してくれるものと努力が要りました。和田實哲学は幼児にカリキュラムは必要ないと唱えてました。



フィンガーペインティング



振り返れば、鳥矢崎での子供のころの自然との触れ合いや泥遊びは通じるものを強く感じ、青木妙子先生が当幼稚園で触覚遊びを始められたことに共鳴しつつ、天職であると思ふようになりました。

日出学園幼稚園では、子どもたちはみんな違っていていいと、本音の教育と出会った喜びを感じ、スタッフと手を取り合って研鑽し日本では数少ない幼稚園と自負して続けました。あのふるさとの大自然は本物を教えてくれ、人間教育の根底にあるものを引き出してくれました。

日出学園幼稚園はプロ集団

担任クラスには、ピアノスト、チェロリスト、オペラ歌手、演劇作家小幡欣治とプロの方々がいって、私のピアノもタジタジでした。「お聞き苦しかったでしょう」と、当時有名なピアノスト松岡三恵さんに言いますと、「子どもたちと息が合ってるからいいのよ」と答えてくれ、冷や汗の掻き通しでした。おかげで様々な舞台を観ることができた時代でした。

「子どもの手は身体の外に出た頭脳である」と言われる説は、子どもたちはそのものでした。自由保育の研究には、イギリスのサマーヒル学園の創設者A.S.ニールを、久保貞次郎氏や羽仁五郎氏を中心としてその精神を教授されたものです。

A.S.ニールの自由という精神の実践力には驚きばかりで、適うものではありませんでした。子どもひとり一人を肯定する精神で取り組みました。子どもたちは生まれながらにして自由奔放であり、不自由になると行動に現れる率直さがあります。「お母さんのお腹に戻してあげる」といいですよ」と青木妙子主任に言われ、その意味の解説にも時間がかかりました。

A.S.ニールについては、鎌田正聰さん(昭35)が一人一人は自由であるを中学校担任クラスで実践されたと伺い、その勇氣には感服しました。

アレクサンダー・サザーランド・ニール(1883～1973年)、イギリスの新教育運動の教育家。

故郷、佐々木家との繋がり

「先輩の職場訪問」として栗駒中学校生徒が大震災前まで10年間ほど来訪され、子どもたちと触れ合ってお互いに喜ぶ素敵な時間を頂きました。その度に小野寺喜美夫先輩(昭26/当時の栗駒会会長)が顔を出して下さいました。その中学生に実家の兄が稲の苗を持たせてくれ、子どもたちは校庭で田植えをして育て、秋になると兄がやってきて全員



小野寺 喜美夫先輩(S26)が訪れた時 平成19年(2007年)

の園児に鎌を持たせ手を添えて稲刈りをさせるんです。子どもたちも喜んで取り組みました。札幌の伯父からは冬になると雪だるまを送って頂き、クリスマスプレゼントに大はしゃぎでした。



伯父が送った雪だるまに対するお礼

また長沼支部長も子どもたちとマラソンして下さい、好きな番号のゼッケンを付けて、「お兄さん待って〜」と足並みを揃えてくださったこともありました。

どれにつけても園のスタッフは好奇心強く、

今思うこと

喜んで受け入れてくれたことにも感謝の気持ちのまま40年勤めた職場を離れました。

岩高時代は印象の強い優秀な先生が多く、学ぶ事が嬉しく豊かな授業が楽しく、学校は大好きでした。しかし成績は追いつかず私は印象の少ない岩高生でした。



同級生 昭和36年(1961年)

平成になり同窓会東京支部を手助けするよう声がかかり、当時の先生方、佐藤ちよ子先生をはじめ岡崎智徳先生、菊地一郎先生、菅原正作先生、小野寺不二見先生、佐藤友美先生、熊谷義典先生、杉利雄先生は、「37年卒は印象が強い学年だ。東京もガンバレ」と会報の読後感で長く応援して下さいました。



岩ヶ崎高校恩師 昭和36年(1961年)

今82歳を迎えて思うことは、趣旨に基づいて何かに付けて参加すること、世話役を受けることは自分の能力以上に豊かにして頂き、人生の糧になる掛け替えのないものを頂きました。この機会にお礼を申し上げ、母校岩ヶ崎高校と創

立70周年を迎える東京岩高会の益々のご発展を、まだまだ応援しております。

「マッカーサーと呼ばれた女性」を書かれた熊本在住中尾富枝さん(昭33)は、女性の社会進出に力を注がれ、ふるさとを想い続け文書を今も書き続け発表されております。同じ卒年で相模原市在住木名瀬五百子さんは、「昔むかしなあ」と栗駒訛りの味わいのいい語り口で舞台に立たれ、今は朗読で活動続けてます。お二人とも病気を乗り越え、「よたよたしてます」と仰りながら、大事な思いは一徹で女子の逞しさを見せて頂いております。この繋がりにもありがたうお付き合いしております。

日出学園で幼稚園教諭になられたのは高校を卒業し10年後のこと。複数回の転職がある中、この道を導いたのはお父様のお言葉、ご家族や恩師などの様々な方々の後押し、それ以上にご本人の強い志と交友関係が、より広がりのある人生にさせています。当初インタビュー形式を予定していましたが、「ご本人からのご執筆があり、そのまま掲載させて頂くことといたしました。」(長沼和秋)

わが家の小さな原始人

大野元明・高森俊興著



「岩高みづな会」同級会(37年卒)

会いたさがいっぱいです! 東京岩高会70周年記念同窓会に相乗り致しまして日帰りにて開催です。37年卒の皆様 久しぶりにお会いしましょう。連絡まだの方、幹事までご連絡お待ちしております。

令和8年11月23日(月)11:00~14:00「KKRホテル東京」
会費は総会費と同額

幹事:菅原三千男、須田陽子、結城家寿子

佐々木くに子

(090-7828-1623, cupid.kunikol209@gmail.com)



岩高みづな会浅草の集い

令和8年6月30日現在

年会費ご協力者・
収支報告

No.	号	年	氏 名	
1		贊助	遠藤	幸治
2		贊助	斎藤	君代
3		宮城	飯田	伸雄
4		宮城	芳賀	康雄
5		宮城	葛岡	重利
6		宮城	後藤	仁
7		宮城	佐藤	澄隆
8		宮城	渋谷	力
9		宮城	菅原	隆文
10		宮城	笠原	すみえ
11		宮城	安住	美和子
12	S	26	佐竹	章
13	S	28	高橋	昭三
14	S	29	藤代	實
15	S	30	高橋	次夫
16	S	31	秋山	強
17	S	31	菅原	一
18	S	32	高橋	東三
19	S	33	木名瀬	五百子
20	S	35	鎌田	正聰
21	S	35	菅原	幸二
22	S	35	須田	和恵

№	号	年	氏 名
23	S	36	加藤 旭孝
24	S	36	久保田 信子
25	S	36	穂積 宏哉
26	S	37	伊藤 克侑
27	S	37	熊谷 栄子
28	S	37	佐々木くに子
29	S	37	菅原 三千男
30	S	37	鈴木 晃
31	S	37	津田 久子
32	S	37	須田 陽子
33	S	37	安川 ムチ子
34	S	37	結城 家寿子
35	S	37	吉川 とみ子
36	S	38	岩永 壽子
37	S	38	佐藤 次雄
38	S	39	只野 和夫
39	S	39	佐々木 元子
40	S	40	小山 ハルミ
41	S	40	三浦 幸喜
42	S	41	鈴木 仙治郎
43	S	42	小川 晶平
44	S	42	佐藤 美喜子

No.	号	年	氏 名
45	S	44	佐々木 敏行
46	S	45	伊藤 初雄
47	S	46	浅野 弘巳
48	S	46	伊藤 光男
49	S	46	菅原 正雄
50	S	46	長瀬 真一
51	S	46	山本 信子
52	S	47	太田 洋子
53	S	47	川村 信子
54	S	47	菅原 修悦
55	S	47	柳川 幸信
56	S	47	和久 充
57	S	48	浅野 和優
58	S	48	石野 久恵
59	S	48	岩崎 哲雄
60	S	48	宇佐美 弘子
61	S	48	大久保 廣幸
62	S	48	梶本 啓
63	S	48	本田 みき子
64	S	48	密島 眞夫
65	S	49	佐々木 哲雄
66	S	49	菅原 由美子

No.	号	年	氏 名	
67	S	49	畠山	純子
68	S	49	濱口	幸江
69	S	49	真下	由利恵
70	S	50	熊谷	純一
71	S	50	菅原	俊雄
72	S	51	古舘	芳子
73	S	52	菅原	節子
74	S	52	高橋	聖
75	S	53	小野寺	伸也
76	S	53	小林	且人
77	S	53	高橋	良哉
78	S	53	富田	早苗
79	S	53	長沼	和秋
80	S	53	山口	真貴
81	S	54	佐藤	隆仁
82	S	54	宮下	廣美
83	S	55	菅原	広巳
84	S	55	二本木	栄子
85	S	56	阿部	豊
86	S	56	三浦	修
87	S	60	小林	玲子
88	H	元	武内	里恵

東京岩高会は、皆様方のご理解・ご支援のもとで支えられています。
これからもよろしくお願い申し上げます。

敬称略

東京岩高会役員一同

會計報告

(令和6年11月1日から令和7年10月31日)

单位: 円

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越金	461,551	総会費用	384,603
年会費(88名)	323,000	総会二次会費用	46,600
広告料(5名)	75,000	慶弔費	4,180
総会会費(47名)	376,000	事務用品費	0
総会ご祝儀(12名)	70,000	旅費交通費	63,570
総会二次会費(23名)	46,000	会議費	35,700
助成金 本部	70,000	通信運搬費	57,108
利子	728	会報費	377,292
		年会費手数料	17,592
		手数料	1,590
		本部等総会参加費	56,000
		次年度繰越金	378,044
計	1,422,279	計	1,422,279

上記の通り報告いたします。

令和 7年11月1日

会 計 浅野 和優

菅原 節子

会計報告につき監査の結果、その内容が適正であることを報告いたします。

会計監査 鎌田 正聡

会計予算案

(令和7年11月1日から令和8年10月31日)

単位:円

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越金	378,044	総会費用	350,000
助成金 本部	70,000	総会二次会費用	40,000
年会費	320,000	会報費	350,000
広告料	60,000	通信運搬費	60,000
総会会費	350,000	慶弔費	5,000
総会二次会費	40,000	事務用品費	5,000
		旅費交通費	60,000
		会議費	30,000
		本部等総会参加費	60,000
		年会費手数料	20,000
		手数料	2,000
		予備費	236,044
計	1,218,044	計	1,218,044

不動産のことならセイトグループへご相談ください。

～不動産の総合窓口～

「目指すのはマーベラスな家づくり、街づくり」をモットーに、
私たちは住まう方にとって、
大切なお住まいが永く、安全に、安らぎの空間となるような
お手伝いを心掛けております。

また、ご資産物件のご紹介、お手持ちの賃貸物件の管理もお任せください。



JR 中央線国分寺駅南口徒歩3分



株式会社 西都建物

〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-22-11

TEL: 042-300-2111

HP はこちらです→



株式会社 マレード

注文住宅・建売住宅



株式会社 ムサシホームズ

賃貸管理・不動産売買



株式会社 セイトリフォームサービス

メンテナンス・リフォーム

(株)マレード店長 佐々木 哲夫 (昭49卒・鷺沢出身)

東京岩高会の活動

2026年
第68号

令和8年7月12日発行

発行人

宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会東京支部 東京岩高会 支部長 長沼和秋

印刷（有）第一コミュニケーション



会報発送作業 R7.7



役員会 ネパールレストランにて R7.6



同窓会入会式

同窓会入会式 R8.2



築高東京支部総会 R7.7



宮城ふるさとプラザ 宮城物産フェア R7.12



仙台支部懇親会 R8.2



本部総会 R7.8



本部総会 R7.8



東京東駒会 R7.6



迫桜高東京支部総会 R7.10



栗原4校会 R8.2



本部総会 R7.8

東京岩高会 年会費ご協力をお願い

皆様方から頂いた貴重な年会費が活動の支えになっております。昨年は88名の皆様方から浄財を賜りまして、真に有難うございます。本年も引き続き倍旧のご協力の程、宜しくお願い致します。

(1) 年会費：3,000円

(2) 振込期限：10月30日(金)までに同封の郵便振替用紙にて郵便局での振込みをお願い致します。

※お振込み手数料は、ご負担の程、お願い致します。

東京岩高会 支部長 長沼和秋
幹事一同